

平成29年夏の大口町水害を振り返って

あなたの身近に突然やってくる水害

今年の8月、名古屋で明治32年の観測開始以降最高気温の40.3度を記録しました。連日の猛暑、記録的な豪雨、本州を東から西へ逆走する台風。気象庁は臨時会見を開き、「命に危険があるような暑さで災害と認識している」、「異例なコースを進む台風のため、これまでの経験が通用しない場合がある」など、異常天候の警戒を呼びかけていました。

今後さまざまな異常気象が起り、昔の常識が通用しない可能性があります。私たちの経験を超える規模の自然災害に対する危機管理に備えましょう。

想定外の水害

死者・安否不明者が200名以上という深刻な被害をもたらした7月上旬の西日本豪雨は、いまだ記憶に新しいところです。大口町においても、昨年7月から8月にかけて数度ゲリラ豪雨に見舞われ、想定外の被害が出ました。特に、7月14日のゲリラ豪雨では五条川が「計画高水位」となり、大口町豊田地区と江南市布袋地区の間を流れる五条川の湾曲し

た部分が越水しました。役場には多くの報道陣から問い合わせがあり、報道ヘリコプターが飛んで一帯に水があふれた様子が全国ニュースで流れました。

幸い、報道が大きかった程には大口町内で甚大な被害は見られず、報告されている範囲で床下浸水8軒、冠水による通行止め4か所に留まりました。

※設計上、堤防が耐えられる水位の高さの上限



その日、役場では…

このような非常事態が起こった場合、役場ではどのような体制がとられているのでしょうか。役場職員にその日の動きを伺いました。

平成29年7月14日(金)、午前8時40分頃から雨が降り始め、その1時間後大雨警報、さらに1時間後には洪水警報が発令されました。この時点で、1時間の雨量は52mmでした。このときの役場の動きを教えてください。



庁内では大雨警報を受け、午前10時半に第1非常配備体制を立ち上げ、30名で町内巡視を開始しました。

自分は雨脚が強くなってきたというところで、11時に先から仕事を早く切り上げて帰庁。このときほほえみプラザ西駐車場に停めてある車が浸水しているのを目撃しました。所属する地域協働部では、ひっきりなしに電話が鳴って対応に追われていました。報道関係の問い合わせの電話が多かったですね。また、テレビ

防災マップ（洪水ハザードマップ）で地形を把握し、自宅や自宅周辺に低くなっている土地がないかを確認し、豪雨時には近づかない、車を停めないなどの対策をして被害を最小限にいとめていただきたいと思います。

また、水害時は地震時と違い、むやみに外に出ないようにしてください。特に夜間は、急な豪雨で浸水した屋外の危険箇所が目に見えなくなります。水に流されたり、水路に落ちたりする危険がありますので、建物倒壊の恐れがない限り、建物の2階以上に避難し（垂直避難）、水が引くのを待つか救助を待つていただく。



▲洪水ハザードマップは5ページに掲載



▲あんしん・安全ねっと登録用QRコード



▲広報無線受信機

防災無線には屋外放送と戸別受信機があり、全国1,700の自治体のうち495の自治体が戸別受信機を利用しています。大口町では平成3年から、幅広い世代の皆さんに防災情報を行き渡らせることができるよう戸別無線機（一機4万円相当）を無償で貸出しています。停電時でも受信ができるよう電池を用意しておきましょう。

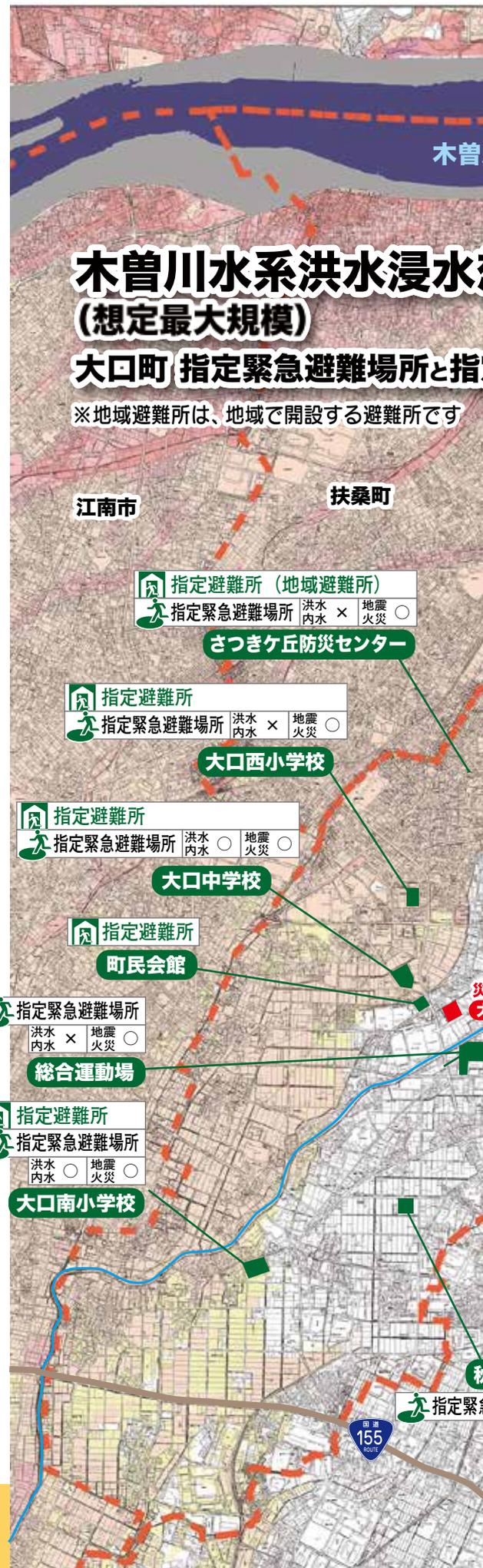
避難の指示が出た区域の方は、速やかに指定された場所に避難しましょう。

※「木曾川水系洪水浸水想定区域図」は、水防法に基づき、水害による被害の軽減を図るため、河川が氾濫した場合、浸水が想定される区域、浸水した場合に想定される水深を表示するものです。

「木曾川水系洪水浸水想定区域図」をもとに、市町村において災害時の対応や避難場所の位置等の情報を具体的に記

載した「ハザードマップ」を作成し、住民に周知することが義務付けられています。防災マップ（洪水ハザードマップ）は、4年前に全戸配布しています。また、大口町ホームページからも閲覧できるようになっています。

※役場からの避難勧告・指示は、防災・防犯メール配信サービス「あんしん・安全ねっと」や広報無線受信機にて配信します。「あんしん・安全ねっと」は携帯電話から登録できます。



木曾川水系洪水浸水 (想定最大規模)

大口町 指定緊急避難場所と指定避難場所

※地域避難所は、地域で開設する避難所です

指定緊急避難場所

災害の種類に応じて危険のおよばない施設等がない常時開けた場所で、災害発生のおそれがある場合にその危険から逃れるため住民が一時滞在する場所をいいます。指定緊急避難場所は災害別で区別されています。

災害時は町内どこの避難所でも利用できます。指定緊急避難場所と安全な避難場所

家庭で対策を

昨年8月18日(金)に自宅が床下浸水するという経験をした安藤伸雄さん(堀尾跡)にお話を伺いました。

その日の出来事を教えてください。

夜の10時過ぎだったと思います。飼っている犬がいつもと違う鳴き方をしたので、異変に気付きました。外に出ると庭一面が水。犬が首輪まで水につかっけていてすぐに助け出しました。離れの娘宅にも水が溢れてくることを伝え、五条川を見るとすごい勢いで川から水が溢れ、流れてきていました。

近所の人の通報で、消防署や役場の人がきていました。とりあえず浮いている庭の鉢植えを集めて自宅に避難しました。いざというときは2階へ逃げようと、その夜は自宅で就寝しました。

その時のお気持ちを聞かせてください。

70年以上この土地に住んでいます。が、初めて見る光景でした。水の勢いに手の打ちようがなく、啞然としていました。

床下浸水したとのことですが、事後対処はどのようにおこなわれましたか？

水が引いたあとは、庭一面悪臭混じりの泥が広がっていました。役場職員が衛生対策の消毒をまきにきてくれました。

実際に水害に遭われた経験から、住民の皆さんにアドバイスをお願いします。

いざ災害が起こると手の施しようがないのを実感しました。五条川、木曾川など、近くに川が流れていることを頭の片隅に置き、自然災害に備え、家庭で事態を想定して対策を考えておいた方がいいですね。水害の後、我が家では土のうを備え、行政へ自然環境の変化に応じた河川整備を強く要望しました。



取材にて

近年の頻発する豪雨災害に備え、役場でも毎回の反省点を踏まえて対策に改善を加えながら危機管理をしています。

昨年7月の水害の際は、殺到する電話対応に追われ、役場内での情報の集約が混乱したことを受け、新しく危機管理ボードを導入するなど、万が一に備えた効率的な機動体制や、災害情報を早く伝えるための伝達方法を見直したそうです。

「住民の皆さんを守るため、役場ではできる限りの対策は練っています。が、人や機器、移動手段に限界があります。限られた制約の中でいかに効率よく救助をおこない、被害を最小限に食い止められるかがカギとなります。有事に非常配備される職員が出動して各地を巡視し、無線で被害状況を役場に集約しますが、住民の皆さんからの通報も貴重な情報源。災害時に何かが気になることや変わったことがあればぜひ役場に知らせていただきたいと思います」と町民安全課。「また、身近な場所のどこにどんな危険があるかを各自で事前に把握して、できる限り自分と自分の家

族の身を守ってください。住んでいる地域で起こりうるあらゆる想定をしておくことが万が一のときの減災につながります」

普段、他人事だと思いがちな水害ですが、いづどんな形で自分の身にふりかかるか誰も予測できません。台風やゲリラ豪雨が襲ったこの時期に、いざというとき、自分はどういう行動をとったらいのか、またどのようにに家族を守ったらいのか、改めて確認してみましょう。平時の「備え」すなわち「想定外の想定」が、有事の際も平常心で最善の対処をおこなうカギとなります。

防災マップを紛失された方は、町民安全課にて配布しています。各家庭で防災意識を高めましょう。

防災・防犯メール配信サービス

あんしん・安全ねっと

あなたのお手元に災害時の
緊急情報をお知らせします！

登録方法 携帯電話から下記メールアドレスへ空メールをお送りください。送信された携帯電話のメールアドレスあてに「本登録」の手順をご案内します。

oguchi@entry.mail-dpt.jp

迷惑防止のためのドメイン指定が必要な方は town.oguchi.lg.jp、アドレス指定が必要な方は bousai@town.oguchi.lg.jp を許可してください。

